

カラスよりも賢く 被害軽減のヒント



被害軽減のヒント



第2回で紹介した通り、カラスは視覚が優れている。逆に、嗅覚は鈍い。カラスは食べ物において発見していると勘違いされがちだが、鼻には頼らず、眼で見つけている。

そこで、農作物の残さを土に埋める、生ごみをごみ袋の奥に入れるなど、カラスから見えないようにするだけで、荒らされにくくなる。

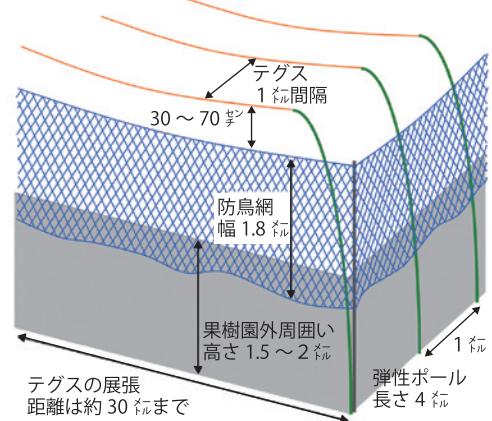
しかし、カラスが餌場であると学習してしまうと、食べ物が見えなくとも執拗に飛来する。また、群れが群れを呼ぶ性質があるため、カラスにとって格好の餌場は、続々と

集まってしまう。対策には最初が肝心で、カラスが餌場と認識する前に食べ物を隠すことが重要である。

カラスは嗅覚が悪いことを踏まえると、臭いでカラスに忌避させる対策は難しいといえる。嗅覚を刺激する酢酸を大量に振りかけた餌を提示する実験を行ったところ、カラスは強烈な臭いを感じず、食べていた。唐辛子に含まれる辛味成分のカプサイシンを用いた対策もあるが、鳥類はカプサイシンに対する感受性

③ 習性を利用した対策 その1

「くぐれんテグス君」の構造（農研機構・中央農業研究センターのマニュアルより）



シンを作るようになつたと考
えられる。つまり、ヒトの可
聴域はヒトよりも狭い。したがつて「ヒトには聞こえず、カラスには聞こえる」というような

音はないと考えられる。つまり、ヒトの可聴域を超えた周波数の音である超音波によってカラスに忌避させることはできない。

余談だが、トウガラシは、歯で種をすりつぶしてしまう哺乳類には食べられないようにしつつ、種を丸呑みして遠くに運んでくれる鳥類には食べてもうえるようにカプサイ

シンを作るようになつたと考
えられる。つまり、ヒトの可
聴域はヒトよりも狭い。したがつて「ヒトには聞こえず、カラスには聞こえる」という音はないと考えられる。つまり、ヒトの可聴域を超えた周波数の音である超音波によってカラスに忌避させることはできない。最も有効な対策は物理的に侵入を防ぐことである。例え
農研機構が考案した果樹園でのカラス対策「くぐれんテグス君」などは非常に有効なので、参考にされると良いだろ
う（「果樹園のカラス対策『くぐれんテグス君』設置マニ
ュアル」で検索）。次回は、カラスの警戒心を利用した対策を紹介する。

（塚原 直樹 株式会社CROW Lab代表）